

資料2

市立豊中病院運営計画「実施計画」
－平成27年度:実施状況－

平成28年7月

市立豊中病院運営計画「実施計画」

1. 医療の質の向上

取組項目及び概要	27年度の取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
① 高度・専門医療の提供				
(1) 医療スタッフの確保				
多様かつ柔軟な手法による採用試験、説明会の実施による医療スタッフの安定的確保に努める。また仕事と家庭の両立が出来るよう環境の整備(院内保育所の充実、病児保育)の検討などを行い、加えて働きやすい勤務時間制度について検討を行う。	民間事業者主催の医師の合同説明会に2回、看護師の合同説明会に11回参加し、職員募集のPRに努めた。採用試験は看護師職について4月採用に向け3回実施したほか随時行った。また、薬剤師・理学療法士等の採用試験を実施するなど、医療従事職員の確保に努めた。職員定数を5名増員した。	合同説明会、採用試験の実施		
(2) 病床の効率的な活用		利用率・在院日数	利用率・在院日数	利用率・在院日数
全国の急性期病院においては、在院日数が年々短縮傾向にある。当院においても、将来的に同様の傾向が想定される中、更なる新入院患者確保を前提とした効率的な病床の活用に努める。	7対1看護配置は「重症度、医療・看護必要度」などの要件を満たした。病床利用率は目標95.0%に対し、在院日数の短縮もあり91.7%であった。一部診療科については、代表的な疾患における平均在院日数の分析を行った。	91.7% 11.8日	95.0% 13日以内	95.0% 13日以内
(3) 外来診療の充実と効率的な運用		外来患者数(1日平均)	外来患者数(1日平均)	外来患者数(1日平均)
入院と同様に外来機能についても、高度・専門医療を行うにあたって重要な視点となる。予約率の向上により効率的な運用を図るとともに、特殊・専門外来の充実を図ることで、外来診療の充実にも努める。	平成27年1月に慢性心不全看護外来を開設した。平成27年4～3月までの実績は288名であった。外来患者数(1日平均)は、1,243人(前年度比+8人)で、微増となったが目標値には至らなかった。	1,243人	1,300人	1,300人
(4) 救急医療体制の充実		救急車搬送受入数 救急科からの入院患者数	救急車搬送受入数 救急科からの入院患者数	救急車搬送受入数 救急科からの入院患者数
当院は、豊能二次医療圏のなかでは救急搬送件数の最も多い病院の1つであり、今後も公的病院としての役割を果たす必要がある。救急専門医確保による安定的な受け入れ体制確保に努めていく。	院内トリアージシステムの確立が完了した。またトリアージシステムの運用により、重症度患者数・搬送時間・搬送年齢等の数値を収集することができ、救急医療委員会で救急診療のあり方検討の資料として提出した。平成27年10月に豊中市消防局と意見交換会を行い、消防局の搬送データや当院の応需率について情報・意見交換を行った。	5,432人 4,785人	5,550人 4,850人	5,600人 5,500人

市立豊中病院運営計画「実施計画」

取組項目及び概要	27年度の取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
(5) 手術室の効率的な運用		手術件数	手術件数	手術件数
手術室の効率的な運用により、手術待ち日数の短縮化と、これまで以上の緊急手術への対応を図ることで、地域中核病院として高度・専門医療の提供に努める。また、麻酔科医の十分な確保を図り、地域の手術に対する需要に適切に対応していく。	医療廃棄物の分別の徹底を平成27年11月から開始した。手術件数は平成26年度5,569件に対し、平成27年度5,561件で8件減少した。全麻件数は平成26年度2,690件に対し、平成27年度2,724件と34件の増加となった。	5,561件	6,000件	6,000件
(6) 周産期医療の充実		分娩件数	分娩件数	分娩件数
産婦人科医、小児科医、看護師等の人員体制の整備を中心とし、地域医療機関との連携体制を構築していくことで、「地域周産期母子医療センター」としての診療機能の維持・強化に努める。特に、当院に求められるハイリスク妊娠、多胎妊娠などへの安定的な対応に努めていく。	周産期システムの活用により看護記録・分娩経過記録などが集約できるようになった。院内助産は29件で平成26年度より2件増加した。分娩件数は772件（うちハイリスク分娩141件、多胎分娩38件）で、平成26年度より130件減少した。	772件	960件	960件
(7) がん医療の充実				
がん医療の提供、緩和ケアの推進、がん医療の地域連携体制の推進、院内・地域がん登録の実施、情報提供や相談支援の実施など「地域がん診療連携拠点病院」としての機能の維持・強化に努める。	がん登録対象患者検索システムを導入し、院内がん登録2,102件、地域がん登録1,948件の届出を行った。緩和ケア研修会にかかる身体のアシレーターについて新たに1名を養成し合計4名となった。外来化学療法室に化学療法センター専従医の診察室を新設し、診察を開始した。	緩和ケア・化学療法・がん相談のインジケーターの設定		
(8) 医療資源の有効活用				
既存の診療機能について、当院に求められている高度・専門医療の提供といった役割や需給状況に応じて柔軟に見直しを図ることで、より適切な医療提供体制整備に努める。	病院内のスペースの見直しについて、1階ロビーのコーヒースポット跡のスペース活用について検討した。平成28年度から新設されるベッドコントロールセンターの設置場所について検討した。	病院内のスペース見直し		
(9) 放射線の管理				
チーム医療の一員として放射線などを利用した検査・治療をするに当たり患者さんが安心して検査・治療が受けられるよう 医療の安全・安心の向上を目指し装置の点検・保守をし被曝線量の低減等放射線管理に努めていく。	CT検査・マンモグラフィー（乳房X線撮影）・歯科でのX線撮影・血管造影撮影の対象検査に対して、「医療被ばく抑制の統一基準」をクリアできていることを確認した。放射線治療部門の品質管理体制を確立した。頭頸部の定位放射線治療を平成28年2月に1例実施した。	放射線治療部門の品質管理体制の確立		

市立豊中病院運営計画「実施計画」

取組項目及び概要	27年度の取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
(10) 急性期におけるリハビリテーションの実施と充実	疾患別リハビリテーションについて早期処方と介入の成果として、脳血管疾患のリハビリテーション開始までの日数が、平均1～2日程度短縮された。言語聴覚士単独での、嚥下訓練時の吸引実施が可能となった。1日1人あたり、理学療法(PT)17.95単位、作業療法(OT)17.61単位、言語聴覚療法(ST)17.59単位、心大血管リハビリテーション24.7単位であった。	疾患別リハビリテーションの実施		
現在の中心疾患別(脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、廃用症候群)急性期リハビリテーションの充実を継続して行う。25年度より心臓リハビリテーションを実施する。またその充実を図るために、積極的な研修参加や部内での勉強会を引き続き行っていく。				
(11) 治療に適切な食事の提供	特別食に対応する疾病がある患者に対し、適応する治療食がオーダーされていない場合は、電子カルテ上に付箋を貼った。また、10月・1月に院内新聞(栄養タイムズ)を発行した。医師等に啓発を続けた結果、加算食比率は平成26年度28.5%から平成27年度34.4%と上昇した。加算食対応となる心高一口大食、心高刻み食、心高嚥下食については平成27年8月、脂質異常症食を平成28年1月から実施にした。	特別治療食の比率 34.4%	特別治療食の比率 31.0%	特別治療食の比率 32.0%
病院食は普通食以外にも、疾病の種類や摂食・嚥下の機能障害など様々な条件に対応できるように多くの種類を設定しており、さらに医師からの要望によりその種類は増えつつある。その全てがさらに院内で広く周知され、十分に活用されるよう体制づくりに努める。				
(12) 医療ニーズの把握と検証	大阪府公立病院協議会の地域医療構想検討部会に出席し、「大阪府地域医療構想」に関する情報収集や(大阪府公立病院協議会としての)要望・提案等を行った。地域医療構想、病床機能報告への対応などについて経営戦略会議で検討し、平成27年10月に病床機能報告を行った。	平成27年度病床機能報告への対応		
外部環境分析および内部環境分析による医療需要の把握と医療供給の検討に努め、地域の中核病院として当院の果たすべき医療機能を検証する。また、検証内容は病院職員に積極的に公表し、情報の共有化に努める。				
② 医療の安全・安心の向上				
(13) 医療安全対策の徹底	医療安全管理研修会(8月と2月)、新規採用の研修医および看護師に対する医療安全研修、医療安全推進週間での市民へのアピール、医療安全管理室ニュースの発行(月1回)などを行い医療従事者の医療安全に関する意識の向上を図れた。平成27年10月施行、医療事故調査制度について院内対応するため運用マニュアルの作成、学習用e-ラーニングの導入や死亡報告制度の導入などを行った。	医療事故発生防止の取り組み		
医療安全管理室を中心に全職員が、医療事故発生の防止に取り組み、各種関連学会等を通じた新たな知見を習得することによって、「安全で安心できる病院」となるよう努める。				
(14) 院内感染防止対策の充実	刀根山病院・市立池田病院との相互ラウンド、市内5病院及び豊中市保健所との合同カンファ(6回)、抗MRSA薬・ゾシンおよび連絡薬剤(カルバペネム系)使用患者対象にICTラウンド(38件)、全職員を対象に感染対策講習会(2回)等を実施し、感染対策の強化を図った。人工呼吸器関連事象(VAE)サーベイランスは継続的にデータ収集し、11月にICU、ICT、感染対策委員会で結果を報告した。	MRSA発生率0.47% 緑膿菌発生率0.48% セラチア菌発生率0.03% 施設間ラウンド2回 合同カンファ6回	MRSA発生率0.4%以下 緑膿菌発生率0.40%以下 セラチア菌発生率0.10%以下 施設間ラウンド2回 合同カンファ4回以上	MRSA発生率0.4%以下 緑膿菌発生率0.4%以下 セラチア菌発生率0.1%以下 施設間ラウンド1回以上 合同カンファ4回以上
病院内の全ての人々を感染から守るため、現行のICT(院内感染対策チーム)による更なる活動の充実を図るとともに、関係各所と協力のもと体制強化に努めることで、継続的な感染対策活動を推進する。				

市立豊中病院運営計画「実施計画」

取組項目及び概要	27年度の取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
(15) 災害対応と危機管理体制の確立	平成27年10月31日(土)に238名が参加し大規模災害訓練を行った。また、訓練実施前に担当部門ごとに事前勉強会を9回実施した。被災地支援活動体制のあり方を検討するとともに、必要備品等の検討を行った。災害時に必要となる資機材を整備した。	大規模災害訓練の実施		
突然の有事に迅速かつ適切に対応できるよう職員の意識や能力を高めることを目的に大災害や大事故に備えてマニュアルの更新や訓練を実施する。 また、他地域における被災地への支援活動についても各種要請に適切な対応を図ることが出来るよう体制を整備する。				
③ 情報化の推進と職員教育の徹底				
(16) 市立豊中病院総合情報通信システムの充実	重症系患者管理システムの導入及び周術期情報管理システムの導入業者を決定し、平成28年2月の運用開始に向け、ワーキングを行いながら構築に取り組み、運用を開始した。	重症系患者管理システム及び周術期情報管理システムの更新		
電子カルテ更新について、「運用の効率化と安全性の向上を図るためにはどのような機能が必要なのか」という視点で更新する。				
(17) 個人情報保護に係る研修の推進	平成27年6月に集合研修によるセキュリティ研修を実施し60人が受講した。第2回目のセキュリティ研修は、eラーニングを活用し、平成28年3月に実施し607人が受講した。平成28年3月に、外部の監査員を招き第三者による内部監査を行った。	セキュリティ研修の実施		
セキュリティシステムの構築と並行して、研修等を通じ職員の個人情報保護の意識を高める取り組みを実施する。あわせて、カルテ及び診療諸記録の紙媒体ならびに電子媒体の実態に即した、運用管理の構築と保存の徹底を図る。				
(18) 診療情報管理の徹底	診療録等の取扱いについて委員会での検討及び関連部署への確認を行い、保管期間を決定した(電子カルテは対象外)。また、診療録取扱い要領の改定について検討を行った結果、新たに市立豊中病院診療情報管理要綱を策定した。院内がん登録の提出期限の変更に伴い、業務手順の見直しを行った。	診療記録等の取扱い要綱の策定		
精度の高い診療情報の整備ならびに情報提供依頼に即応できる管理体制の構築に努める。管理体制の構築にあたっては、診療記録の質の向上を図り、職員に対する意識づけや管理方法の改善等を継続して実施していく。				
(19) クリニカルパス充実による医療の標準化	クリニカルパス設定期間を調査し、最も適応されている病名の(DPC)入院期間Ⅱの日数を基準に設定されているか外科系を中心に調査した。設定期間は概ね入院期間Ⅱを基準にしていたため継続して利用することとした。平成28年3月にクリニカルパス大会を実施した。	クリニカルパス利用率	クリニカルパス利用率	クリニカルパス利用率
質の高い医療の標準化を目的に、クリニカルパスの充実を図る。クリニカルパスを適用することで医療の質のみならず、患者満足度の向上や安全管理にも寄与する。		51.40%	50%以上	50%以上

市立豊中病院運営計画「実施計画」

取組項目及び概要	27年度の取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
④ 医師及び看護職員の業務負担軽減				
(20) 医師の業務負担軽減 医師の業務負担軽減策を検討する。業務負担軽減策の一つとして医師事務作業補助体制の充実を図る。また、平成24年度より試行的に導入している外来メディカルアシスタント(MA)の拡充についても検討していく。	応援医師の活用、育児支援策(院内保育所、短時間勤務制度、病児一時引き受け制度)など業務負担軽減に努めた。メディカルアシスタント室を新設し、メディカルアシスタントを確保し体制の強化を図った。	育児支援策等の実施		
(21) 看護職員の業務負担軽減 近年診療報酬上においても、看護職員の負担軽減を促進することが積極的に推進されている。看護補助体制の充実による業務負担軽減の可能性や職種間での業務分担のあり方を検討していく。	ベッドコントロールのフロー作成し、看護部と地域医療室と連携して実施した。非常勤の短時間看護職員導入にむけて説明会を実施し、11人採用し、配置した。	看護補助者の見学会実施		

2. 患者サービスの向上

取組項目及び概要	27年度の取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
① 接遇および患者の利便性向上				
(22) 患者満足度の向上	<p>平成27年11月～12月にかけて入院患者向け及び外来患者向けに患者満足度調査を実施し、入院患者向けは495件、外来患者向けは921件の回答を集めた。平成28年3月に調査専門業者による報告会を実施した。</p>	患者満足度	患者満足度	患者満足度
<p>入院患者および外来患者を対象とした満足度調査を計画的に行い、調査結果から得られた課題・問題点を分析し、患者サービスの視点から改善方法等を検討、実施する。また、投書(意見箱)などを通じ、患者・家族からの意見や要望の把握に努めるとともに、患者ならびに家族等の不安を軽減すべく、患者相談体制の一層の充実に努める。</p>		<p>入院: 89.7% 外来: 79.1%</p>	<p>入院: 前回数値(93.58%)を上回る 外来: 前回数値(83.61%)を上回る</p>	<p>前回調査を上回る (入院95.2%、 外来84.7%)</p>
(23) 接遇の向上	<p>平成28年2月に職員向け接遇研修を行った。接遇マニュアルを院内ホームページ等に掲載し、接遇マニュアルの周知を行った。</p>			
<p>患者・家族と病院職員の信頼関係を向上することを目的に、全職員を対象とした接遇研修の継続的な開催を行う。併せて、より職員が医療現場で生かすことが出来るような効果的な研修の内容についても検討を行い、接遇マナーの徹底に努める。</p>		接遇研修会の開催		
② 待ち時間対策および院内環境の整備・充実				
(24) 診察・各種検査待ち時間の対策	<p>患者が基本カードを受付に提出してから会計担当者が会計登録を完了するまでの時間を会計待ち時間として調査を複数回実施し、医事業務委託業者と人的要因やシステムの要因の分析を行うとともに改善策について検討した。結果、平均会計待ち時間は年度当初の20分前後から10分前後となった。</p>			
<p>外来診察や各種検査の待ち時間・日数について、人員体制やシステムのハード面や、運用面といったソフト面の改善により、これらの待ち時間の短縮を図ることが出来ないか検討を行う。特に紹介予約患者における待ち時間短縮を優先に検討を行う。</p>		待ち時間調査の実施		
(25) 売店機能などアメニティの充実	<p>来院者の利便性向上のため駐輪場拡充の設置工事を行い、平成28年1月に竣工した。この結果、従来の50台から150台分の駐輪が可能となった(稼働率約73%)。</p>			
<p>患者さんや職員の利便性の確保のためコンビニエンスストアを設置する。またアメニティの充実について検討を行う。</p>		駐輪場拡充工事の実施		

市立豊中病院運営計画「実施計画」

取組項目及び概要	27年度の取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
(26) 食事療養の充実	<p>「シェフのおすすめメニュー」および「マチカネデリカ」をそれぞれ月に1回継続実施し、患者からの感想も良好であった。平成27年4月から休日祝日のアレルギー食対応を開始した。8月から貧血食米飯の選択メニューを開始した。</p>	シェフのお勧めメニュー	シェフのお勧めメニュー	シェフのお勧めメニュー
<p>病院食については「栄養管理」はもとより、食材・調理法・味付けにおいても一層充実した病院食提供が求められている。定期的な嗜好調査等の実施を通じて、より患者にとって満足度の高い食事提供に努める。</p>		マチカネデリカ	マチカネデリカ	2回/月
③ 地域への貢献				
(27) 市民向け講演会・講座の開催	<p>市民を対象に「がんにならないために…、もしがんになっても…」、「救急医療を知ろう」、「あなたを支える緩和ケア」等、中学生を対象に「性感染症の予防について」、「がんについての正しい知識とがん予防について」などの講演・講座を実施した。</p>	「がん医療市民公開講座」等の実施		
<p>地域の中核病院として、講演会や講座の開催を通じて、患者・地域住民に対する啓発活動に努め、より身近な病院として信頼向上を図る。</p>				
(28) 広報機能の充実	<p>平成26年度から実施しているサイトリニューアル(スマートフォン対応サイトの作成)が平成27年6月に完了した。「豊能医療圏 がん医療ネットワーク協議会」のホームページを新規に制作した(平成28年4月公開)。「病院だより」を発行した(年4回)。病院年報を9月に発行した。</p>	ホームページのリニューアル		
<p>広報機能の一層の機能充実を図ることで、病院のPR強化に努める。既存の広報ツールや情報収集のプロセスにおいて、不十分な点や見直しの余地が残されている点を抽出し、全病院的な取り組みが展開出来るよう、体制の整備に努める。</p>				

市立豊中病院運営計画「実施計画」

3. 医療連携の推進

取組項目及び概要	27年度取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
① 地域における医療機関との連携				
(29) 地域医療支援病院機能の維持・充実	地域連携をさらに進めるため、市内外の地域医療機関を当院診療科部長と地域医療室が訪問し、当院に対する意見を収集し、問題点を整理、業務改善を進めるため、緊急時の受入や紹介予約枠の拡大について検討した。地域医療従事者向け研修会は、各診療科、チームで定期的に開催し、オープン化が図れた。	地域医療支援病院紹介率	地域医療支援病院紹介率	地域医療支援病院紹介率
紹介・逆紹介の推進、在宅医療の支援、地域医療従事者に対する研修の実施、市民等への医療情報発信など「地域医療支援病院」に係る機能の維持・充実に努める。		地域医療支援病院逆紹介率	地域医療支援病院逆紹介率	地域医療支援病院逆紹介率
		75.5% 78.0%	73.0% 75.0%	60.0% 70.0%
(30) 病病連携・病診連携の推進	高齢者にもわかりやすい登録医マップを作成し、リーフレットやホームページにより、地域の医療機関を紹介するとともに、かかりつけ医を持つことへの啓発を行った。登録医の申請手続きについて、簡素化を進めた。病病連携事業「あんしんルート」事業によって、病院の機能と患者の状態にあわせた治療を提供することができた。ベッドコントロールセンターの試行により、緊急入院患者を迅速に受入れることができた。	登録医制度契約率(医科)	登録医制度契約率(医科)	登録医制度契約率(医科)
当院の診療機能・専門領域などのPRに努めるとともに、地域医療機関との信頼関係の構築により患者へのシームレスな医療提供を図る。		登録医制度契約率(歯科)	登録医制度契約率(歯科)	登録医制度契約率(歯科)
		76.4% 71.7%	78.0% 68.0%	80.0% 70.0%
(31) 4疾病を中心とした地域医療連携パスの拡充	大腿骨頸部骨折や脳卒中、糖尿病、急性心筋梗塞の地域連携パスについては、計画策定病院と連携先医療機関との連携会議をとおして、運用にあたっての情報を共有し、連携を図った。がん地域連携パスについては、地域医療機関への訪問等をとおして、連携先医療機関の依頼を行った。脳卒中パスについては、パス運用をわかりやすく説明するため、患者向けの説明ツールとして、療養パンフレットを作成した。	地域連携パスの実施		
現在、地域の医療機関と協力して「がん」、「脳卒中」、「糖尿病」、「急性心筋梗塞」、「大腿骨頸部骨折」といった疾病の地域連携パスが稼働している。今後も、地域全体でのシームレスな医療提供体制の充実に努めるべく、対象疾患ならびに連携医療機関の拡充を図っていく。				
(32) 臨床検査講演会・技術講習会の開催	地域の医療従事者を対象に超音波技術講習会を平成28年2月に開催した。申込み受付初日で定員となり、医師13名、臨床検査技師2名(定員15名)が参加し、好評を得た。	超音波技術講習会の開催		
地域における医療機関の医師、臨床検査技師や看護師などの医療従事者を対象に、臨床検査をテーマとした講演会や技術講習会を開催し、最新の情報を提供するとともに情報交換を行い、医療水準を高めていく。				

市立豊中病院運営計画「実施計画」

取組項目及び概要	27年度の取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
② 自治体立病院、特定機能病院との連携				
(33) 圏内市立病院および特定機能病院との連携 各病院の医療提供体制や地域性、自治体の意向等も考慮した上で、二次医療圏内として最適な機能分担のあり方を検討する。なお、当該連携にあたっては、機能分担のみならず、各種情報連携のあり方といった点も含め検討を進める。	北大阪5病院会議などを通じて情報交換に努めた。「豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会」や「豊能医療圏脳卒中地域連携パス会議」などを通じて、連携強化に努めた。	北大阪5病院会議等による連携		

4. 経営基盤の確立

取組項目及び概要	27年度取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
① 収益の確保				
(34) 診療報酬の適正な算定				
診療報酬算定については月次レベルでの算定状況確認に努める。特に医学管理・在宅療養に係る算定項目は業務運用による部分も大きいため、関連する業務運用の検証も適宜行っていく。またレセプト減点率や保留削減にも継続して努めることで適切な精度管理も行っていく。	医学管理システム導入により、算定根拠となるカルテ記載との整合性に取り組んだ。レセプト点検システムを使用して、減点・返戻率の減少に取り組んだ(減点率0.27%)。	レセプトの減点・返戻減少への取組み		
(35) DPC/PDPS制度への対応				
適正な病名コーディングおよび正確なデータ提出に努める。また、制度設計の過渡期であるDPC/PDPS制度に対して、適宜各種関連データ等を用いた分析・検証を行う。	コーディングの精度について、平成27年度の詳細不明コードは他病院の平均5.67%と比較し、当院は0.47%に抑えることができた(DPC分析ソフトEVE参加750病院中12位)。DPC分析ソフトEVEを使用した情報を、血液内科・婦人科・化学療法センターや脳卒中勉強会で発信を行った。	適正なコーディングの実施		
(36) 未収金の発生抑止と督促体制の強化				
適切な収益確保並びに負担の不公平感の解消という2つの視点から、未収金の発生防止と督促体制の強化に努める。発生抑止については、発生要因別に事例整理をおこない、要因ごとの病院対応方針を明確化する。また、多様な手法による督促体制の構築を検討する。	受診時の窓口や、電話での催告、督促状の送付による未収金の回収に努めた結果、10,766,003円の過年度未収金を回収し、年度末における未収金の額は13,457,874円(66,573,176円→53,115,302円)減少した。平成26年度に引き続き救急入院患者へ限度額認定証の説明を実施し、未収金の発生抑制に取り組んだ。弁護士事務所への医療費未収金業務は48件委託し、実績は1,024,745円であった。	現年度分収納率 過年度分収納率	現年度分収納率 過年度分収納率	現年度分収納率 過年度分収納率
		99.4% 16.2%	99.0%以上 20.0%以上	99.0%以上 20.0%以上
② 費用の抑制、軽減				
(37) 後発医薬品導入の検討および導入効果の検証				
後発医薬品への切り替えについては、安全性の確保を最優先とし、今後の薬物療法の変化、他病院での使用状況、流通状況、納入価格、切り替え効果などを鑑み、検証していく。	平成27年4月においてDPCの後発医薬品指数は0.64であったが、年度内に89品目変更したことにより、平成28年3月においては0.84となった。また、平成27年度年間の後発医薬品指数は0.75となった。既に切替え済みの後発医薬品について、継続して経済的効果と安全面の検証を行った。	切替え済み後発医薬品の経済的効果及び安全面の検証		

市立豊中病院運営計画「実施計画」

取組項目及び概要	27年度取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
(38) 材料費の抑制・軽減				
材料の価格交渉の実施について、各々の特性に応じた交渉方法を検討していく。また他病院とのベンチマークを元にした現行採用物品の価格の適正化や新規採用物品の価格交渉活動を行う。	診療材料と医薬品について、市場価格を調査のうえベンチマークを基にして仕入業者と価格交渉を行うなど、購入価格の抑制に努めた。	購入価格抑制への取組み		
(39) 光熱水費の抑制・軽減		電気ガスエネルギー使用量	電気ガスエネルギー使用量	電気ガスエネルギー使用量
全職員に対してコスト抑制に対する意識を働きかけていくことで、光熱水費などの諸経費の抑制・軽減に努める。	光熱水費の削減に向けて、照明の間引きや空調温度の適正管理、空調一部停止などに取り組んだ結果、平成23年度比で、電気使用量は3.2%となった。また、ガス使用量は9.8%増、水道使用量は16.7%減となった。	3.4%削減 (平成23年度比)	3%削減 (平成23年度比)	5%削減 (平成23年度比)
(40) 施設の計画的な整備				
平成24年度に作成した施設の修繕・整備計画に基づき建物や設備の改修を実施する。また、コ・ジェネレーションシステム(熱電併給)の更新などを実施する。	駐輪場の設置工事は平成28年1月、中央監視設備の更新は3月に竣工した。管理棟電子カルテシステム増設、手術室インターホン更新、深井戸ポンプ更新工事は平成28年2月に竣工した。また、長期修繕計画に基づき、照明器具更新、吸収式冷温水発生機更新、防災システム更新などの設備設計を行った。	中央監視設備の更新		
(41) 医療機器の計画的な整備				
地域の急性期中核病院として必要な高額医療機器について、導入の緊急性や需要見込み等を考慮しながら適切な更新計画を策定のうえ整備する。また、とくに重点化を図るべき分野については、優先的に整備する。	ICU/NICU重症部門患者情報システムの構築や手術部門システムORSYSの更新を行った。手術支援ロボット「ダヴィンチXi」、PACSシステム(医療画像情報装置)などの機器購入の検討を行った。	平成28年度医療機器購入の検討		
(42) 超音波装置の中央管理実施				
超音波センターを設置し、院内の超音波検査装置を臨床検査部で統括管理する。効率よい運用ができるよう配備し、必要に応じて点検やメンテナンスなどを行う。また適切な更新計画を策定する。	新規購入機器をリストへ登録し、超音波機器リストの更新を行った。次年度の予算申請を超音波機器管理センターからの一括申請とした。研修医へオリエンテーション時に超音波装置の指導を行った。	超音波機器管理センターによる予算申請		

市立豊中病院運営計画「実施計画」

取組項目及び概要	27年度の取組状況	27年度実績	27年度目標	29年度目標
③ 運営管理体制の構築				
(43) 職員のモチベーション維持向上				
公平で透明性の高い業績評価制度の導入を図ることで、日常業務に対するモチベーション向上に努める。当該制度導入にあたっては、経営的な視点の他に、日常業務に対する姿勢や行動といった視点を踏まえた制度設計に努める。その他、時間外勤務労働についても業務効率化を図ることで削減することをめざす。	医師の人事評価制度を制度設計し、試行実施を行った。休暇取得促進をめざし、短時間勤務看護師を確保した。専門看護師資格取得支援を整備した。	短時間勤務看護師の確保		
(44) 研修制度の充実				
高度・専門医療の提供の実現にあたって、人材育成は最も重要な要素であり、病院全体として充実を図る。また、当該取り組みを対外的に積極的にPRしていくことにより、患者だけでなく医療スタッフにとっても魅力ある職場づくりを推進していく。	医療安全管理研修、緩和ケア勉強会、感染対策研修など各種研修会を実施した。事務・コメディカル向け心肺蘇生の研修会を看護職と同時に8回実施し、計182名が参加した。医事業務委託業者向け心肺蘇生の研修会を実施し、24名が参加した。	心肺蘇生の研修会実施		
(45) 地方公営企業会計制度改正への対応				
企業会計基準との整合を図ることを目的として、地方公営企業会計制度が改正された。借入資本金の負債計上や退職給付引当金、賞与引当金等の義務化、リース会計の導入など、大きく制度が変更されるなかで、これらの制度改正に対応する必要がある。また、財務諸表・健全化指標への影響の把握に努め、良好な経営基盤の確立に向けて取り組みを行う。	平成26年度から新会計基準に対応している。	(終了)		
(46) 病院機能評価による機能向上				
病院機能評価の認定更新により、現状の優れている点や改善すべき問題点を客観的に把握し、改善に努めることで病院機能の向上及び効果的なサービスの改善につなげる。	平成26年度末に認定更新された。	(終了)		
(47) 経営状況・業務実績の共有化				
全職員が病院の経営状況を理解し日常の業務に柔軟に対応出来るよう、周知の方法や周知する内容等も工夫を図る。目標に対する達成度や現状の課題を認識することで、迅速な経営判断・実行への着手を図っていく。	平成27年4月に「運営方針について」、7月に「(実施計画の)平成26年度実施状況」、11月に「院内通信」、「市立豊中病院の経営状況」を院内ホームページ等に掲載し、経営状況や運営方針などについて全職員への情報共有に努めた。	「運営方針について」、「院内通信」の発行		

数値目標達成状況一覧表

No.	個別活動プラン等	数値目標項目	実績値(平成27年度)	目標値(平成27年度)	目標値(平成29年度)
2	病床の効率的な活用	病床利用率	91.7%	95.0%	95.0%
		平均在院日数	11.8日	13日以内	13日以内
3	外来診療の充実と効率的な運用	外来患者数(1日平均)	1,243人	1,300人	1,300人
4	救急医療体制の充実	救急車搬送受入数	5,432人	5,550人	5,600人
		救急科からの入院患者数	4,785人	4,850人	5,500人
5	手術室の効率的な運用	手術件数	5,561件	6,000件	6,000件
6	周産期医療の充実	分娩件数	772件	960件	960件
11	治療に適切な食事の提供	特別治療食の比率	34.4%	31.0%	32.0%
14	院内感染防止対策の充実	MRSA院内発生率	0.47%	0.40%以下	0.40%以下
		緑膿菌院内発生率	0.48%	0.40%以下	0.40%以下
		セラチア菌院内発生率	0.03%	0.10%以下	0.10%以下
		施設間のラウンド回数(相互に1回)	2回	2回	1回以上
		合同カンファレンス回数	6回	年4回以上	年4回以上
19	クリニカルパス充実による医療の標準化	クリニカルパス利用率	51.4%	50.0%以上	50.0%以上
22	患者満足度の向上	患者満足度調査結果、満足しているとの回答(入院患者)	89.7%	前回数値(93.58%)を上回る	前回調査を上回る
		患者満足度調査結果、満足しているとの回答(外来患者)	79.1%	前回数値(83.61%)を上回る	前回調査を上回る

数値目標達成状況一覧表

No.	個別活動プラン等	数値目標項目	実績値(平成27年度)	目標値(平成27年度)	目標値(平成29年度)
26	食事療養の充実	シェフのお勧めメニュー回数	1回/月	1回/月	2回/月
		マチカネデリカ	1回/月	1回/月	
29	地域医療支援病院機能の維持・充実	地域医療支援病院紹介率	75.5%	73.0%	60.0%
		地域医療支援病院逆紹介率	78.0%	75.0%	70.0%
30	病病連携・病診連携の推進	登録医制度契約率(医科)	76.4%	78.0%	80.0%
		登録医制度契約率(歯科)	71.7%	68.0%	70.0%
36	未収金の発生抑止と督促体制の強化	現年度分収納率	99.4%	99.0%以上	99.0%以上
		過年度分収納率	16.2%	20.0%以上	20.0%以上
39	光熱水費の抑制・軽減	電気ガスエネルギー使用量	(平成23年度比)3.4%削減	(平成23年度比)3%削減	(平成23年度比)5%削減
—	経営基盤の確立	経常収支比率	101.2%	100%	100%
		入院診療単価	57,201円	56,000円	58,000円
		外来診療単価	15,272円	13,800円	14,000円